

## 研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 集合視による注視・行動解析に基づくライフイノベーション創出

2. 研究代表者： 佐藤 洋一（東京大学生産技術研究所 教授）

3. 中間評価結果

複数の人物が利用するウェアラブルカメラ映像から得られる視覚的な体験共有知（集合視と呼ぶ）の研究を、一人称視点映像、二人称視点映像の両方を用いて追究している。学術的にレベルの高い論文誌や国際会議に多数発表されており、質、量ともに十分なレベルに達している。カメラ映像に映った人物や物体を認識・理解するだけでなく、一人称視点映像からカメラ装着者の行き先や行動を予測する方法、一人称視点と二人称視点を統合して、二者間インタラクションのアクションとリアクションを認識する方法など、カメラから多くのインタラクション体験の解析が可能になることを明らかにした点を高く評価する。国内外の研究機関が連携した国際的な研究チームのメリットを活かして、テーマ間の相補関係から生まれる新しい手法の発見や、テーマ間での若手の人材交流・育成、柔軟な発表戦略など、研究代表者のリーダーシップやマネジメントの工夫がみられる。最終目標に向けて、手術の協働支援、視覚障害者の屋内外ナビゲーションなどに適用する場合には、質が高いこれらのコア技術をうまく組み合わせたユニークな集合視の知能システム実現（アウトプット）や新産業創出（アウトカム）を期待したい。